

持つ者があったが、治療後は体調が良好となり、積極性が増し、朗らかな傾向になり、肥満児でも不得手の体育が向上し、あらゆる事に積極的に参加する意欲が伺えるようになった。従って肥満を防ぎ、それ等の心身の障害を克服するには、現代社会機構から派生してくる生活に甘んずる事なく、日常の衣、食、住に対して積極的に対処する態度が必要である。

A-102 肥満者の生活環境について

福岡女大家政 田川 隆輔
香蘭女短大保育 ○津村 敦栄
福岡女学院短大家政 稲山真理子

1. 最近、脂満者の増加が問題になっているが、この増加の一要因として、急速な経済成長により生じてきた生活環境の影響が考えられる。著者等は肥満者の生活環境の調査によって、肥満増加の原因と肥満者の生活面について、些かの知見を得たので報告する。

2. 単純肥満と目される肥満婦人及び肥満学童に対して、肥満に到るまでと現在の生活環境に関するアンケートをとり、同時に矢田部ギルフォードの性格検査を行なった後に食事療法を行ない、再び治療後の心身及び生活環境の変化に関するアンケートをとった。

3. 肥満婦人は家庭電化により体を動かすことが少く、肥満児も積極的に外で遊ぶ意志が見られず、学方面では普通児と大差ないが、体育面でかなりの開きが見られた。性格的に肥満婦人及び肥満児ともに協調性が高く、反面、劣等感が強く、非活動的で消極的な面が見られた。食生活では、不規則な食事をしている者が多く、肥り始めの時期に現時点の2～3倍摂取食して居り、特に主食、間食が多い。肥満婦人中には生理機能障害等を